

# 山陽小野田市食育推進会議議事録

会議の種類	令和4年度第1回山陽小野田市食育推進会議		
日時	令和4年7月6日(水) 15:00～16:40		
場所	高千帆地域交流センター分館2階		
出席者	市民代表	磯部美幸 (委員)	
	山口県販売協力店連携協議会	大谷浩彦 (委員)	
	山陽小野田市母子保健推進協議会	高木理代 (委員)	
	山陽小野田市立山口東京理科大学	立花研 (委員)	
	山陽小野田市地球温暖化対策地域協議会	内藤美恵子 (委員)	
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子 (副会長)	
	山口県漁業協同組合	久中幸子 (委員)	
	山陽小野田市教育研究会	増田和美 (委員)	
	小野田南高泊干拓農業協同組合	松村孝子 (委員)	
	山口県立厚狭高等学校	森祐子 (委員)	
	宇部フロンティア大学短期大学部	山下晋平 (会長)	
	山口県私立幼稚園連盟	渡邊和憲 (委員)	
	(出席者数 12人)		
欠席者	市民代表	井本和幸 (委員)	
	小野田料飲店組合	窪井紀彰 (委員)	
	山陽小野田市保育協会	竹中佳奈 (委員)	
	(欠席者数 3人)		
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	納屋早与子	
事務局	福祉部部長 吉岡忠司	福祉部次長兼健康増進課長	尾山貴子
	健康増進課主幹 藤本義忠	補佐兼健康増進係長	大海弘美
	健康増進係長(食育担当) 加藤諭香江	健康増進課技師	内田直子
食育推進庁内連絡会	市民部次長兼環境課長 梅田智幸	福祉部次長兼子育て支援課長	長井由美子
	経済部次長兼農林水産課長 川崎信宏	学校教育課長	長友義彦
	学校給食センター所長 和田英樹		

事務局	<p>1 開会あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和4年度山陽小野田市食育推進事業報告について (資料1事務局から説明)</p>
会長	<p>資料1の「4食育推進運動の展開」について、「食育講演会」は新規事業となっている。子どもの暮らし環境の重要性に気付かれ食育活動を実践されている現役の小学校教諭の講話とのことで、改めて、家庭、園や学校、地域が一体となって進める食育の重要性を共有し、本会議の委員をはじめ、関係機関が同じ方向を向き、それぞれの立場から取り組んでいくことが大切であると感じる。委員におかれてもぜひ参加頂きたい。</p> <p>食育講演会や、その他の市の食育について、どのように啓発されているか。</p>
事務局	<p>市広報、市ホームページやSNSの活用、地域交流センターや図書館でのポスター掲示を行っている。また、対象者に合わせ、保健事業や教室、団体・学校等の関係機関を通じてチラシを配布し、周知している。周知の際には、「食育」のお知らせと分かるように、市の食育キャラクターである「ねたろう食育博士」のイラストやスマイルエイジングの「食事」のキャラクターを活用している。</p>
会長 委員	<p>食育のキャラクターは市民への周知ができていると感じるか。</p> <p>ねたろう食育博士養成講座のことは知っており、興味を持っている。過去に自分の娘も受講したことがある。キャラクターがあることで、特に子どもたちは興味がわくのではないか。</p>
会長	<p>学校給食の食器にはねたろう食育博士のキャラクターが印刷されているようだが、その他のキャラクターを含めた食育の啓発はどのようにされているのか。</p>
連絡会委員	<p>毎月19日の食育の日に食育だよりを発行しており、「ねたろう食育博士」のイラストを掲載している。提供する給食にも特に地場産を積極的に使用し、食育の日をPRしている。また、コロナの影響で過去2年間は中止となっていたが、今年度は夏休み期間を利用し、親子食育料理教室を予定しており、食育の啓発の機会としている。</p>
会長 委員	<p>妊娠期から乳幼児期の食育について、コロナ禍における課題は感じておられるか。</p> <p>家庭でも祖父母と会いにくい状況があり、多世代の交流が減っていることで、些細なことを相談できるような環境が少なくなっていると感じる。妊婦や赤ちゃん訪問の際や、市の事業、子育てサークル等、保護者に会える機会にコミュニケーションを通して、様々な情報を提供できるよう活動している。</p>
会長	<p>家族間だけでなく、他の家族との交流も減っている現状があると感じる。保護者が気軽に相談できるような環境の提供も食育を推進していく上で重要であると感じる。</p>

事務局	<p>資料1の「6食文化継承のための活動への支援」について、魚の摂取量が減少していると言われるが、魚を使った料理教室についてどのように開催されているのか。</p> <p>スマイルキッズ内に「キッズキッチン」という未就学児が調理体験を行うことができる施設があり、3歳半から就学前の子どもを対象とした教室を開催している。その教室の一部で、子どもだけで、イワシを手開きし、すり鉢を使ってつみれ団子をつくるという体験を行っている。参加者の中には、魚を触ることを嫌がる子どもがいるが、出来たことに対し、達成感を味わえるようサポートしている。保護者の感想には「家では、やったことがなかったが家でも一緒にやってみます。」などの声も聞かれ、家庭での調理体験や習慣化のきっかけにもなっている。</p>
会長	<p>キッズキッチンでは、いわしを手開きする体験を3歳半から就学前の子どもが行うとのことであったが、切り身でなく家庭で魚を1から扱う場面が減ってきていると思うが、和食の文化を伝える立場から、魚に触れる機会をどのように提供したらよいと考えるか。</p>
委員	<p>近隣の市場でも骨抜き切り身魚の取り扱いが増えていると感じる。忙しい保護者が、安全に子どもに食べさせるためだということを目にする。食べる魚や、部位によっては小骨が少ないものもあるがその情報を届ける場所が少ない。魚の料理教室も近年は開催しておらず、今後どのように啓発できるかが課題である。</p>
会長	<p>魚の食べ方も、家庭で保護者が子どもに経験させることが大切である。料理教室は魚に触れる良い機会であると思うので、今後もキッズキッチンでの食育等をはじめとした教室を継続して頂きたい。</p> <p>「ねたろう食育博士が開催する食育教室」では地産地消の視点が入っている。地産地消コーナーの設置や売れ行き等現状について教えて頂きたい。</p>
委員	<p>野菜が多く収穫できる時期は、地産地消コーナーに出荷される農家さんが多く、地域に根付いた野菜等の提供が可能であるが、端境期になると出荷が少なくなって、売り上げも少ない現状がある。野菜の価格が高騰した際には地産地消コーナーに目が行く来店者も多いが、価格が安定してくると、価格が安い、見栄えが良い商品を手取る方が多い印象である。</p>
会長	<p>地産地消を推進していく上では、地元でどのような食材があるのかを知ることが非常に大切だと思うが、社会見学は再開しているのか。</p>
委員	<p>昨年までは、屋外のビニールハウス中心の見学であったが、今年からは屋内の作業場まで入って見学してもらえるようにしている。また、今年度も、ねたろう食育博士養成講座の講師を引き受けており、地元で作られている食材を紹介し、地産地消の啓発を行う。SOS健康フェスタへも参加する予定で、ネギ焼きや野菜販売を通して、地元の食材を身近に感じてもらえればと思っている。</p>
会長	<p>生産から加工の場まで、どのように作られているかを実際に見学することで子どもたちも地元の食材に興味を持てると思う。市の事業協力も</p>

連絡会委員	<p>含め、今後もぜひ継続をお願いしたい。</p> <p>市内の地産地消、地場産の活用の現状はどのようになっているか教えて頂きたい。</p> <p>地産地消、地場産の活用状況を数値で示すことは難しいが、スーパーの地産地消コーナーの設置は行えている。一方、まつりやイベント等での野菜等の販売や、市内の漁港行われていた朝市での販売は、コロナの影響を受けて実施できていない現状である。なるべく、地元の食材を提供する場を設けたいので、今後は感染状況をみながらイベント等の実施で地産地消を進めていきたい。また、スポーツと関連を持たせた啓発として、レノファ山口のホームゲームで「山陽小野田の日」の実施があり、その中で新規就農者が野菜のPRを行うという取組を行っている。</p>
会長 事務局	<p>その他意見はあるか。なければ資料2について事務局より説明をお願いしたい。</p> <p>(2) 第2次山陽小野田市食育推進計画中間評価(食育に関する市民意識調査について)</p> <p>(資料2事務局からの説明)</p>
会長	<p>資料2について御質問、御意見はあるか。</p>
委員	<p>目標指標2の誰かと食事をする機会のない高齢者の割合が増えているようだが、コロナ禍での高齢者の共食の現状、世代を超えた多世代と高齢者が食事を共にする機会が地域であるのか</p> <p>コロナ禍で様々な人と一緒に食事を食べることが避けられ、共食の場が非常に減っており、高齢者や単身者の孤食は増えていると思う。今年度は料理教室の開催や、ねんりんカフェの実施を予定しており、感染状況をみながら実施していきたいと考えている。</p>
会長	<p>感染対策をとりながら、地域の高齢者などが集える共食の機会を増やしていくことが大切であると感じる。</p>
委員	<p>目標指標4、5の朝食摂取について、朝食を欠食している20代の男性の現状について学生から見えること、感じるものがあれば伺いたい。</p> <p>女子学生に比べ、男子学生の方が「時間がない、面倒くさい、朝起きられない」といった理由で朝食を欠食したり、菓子パンで済ませたり、といった傾向があり、どのようにしてきちんと朝食摂取ができるようにするのが課題と感じている。</p>
会長 委員	<p>園児の保護者や子どもの朝食摂取率はどうか。</p> <p>園では朝食摂取率を把握するのは難しい。園では、適量をバランスよく食べるように指導している。家庭環境によっては朝起きるのが遅い子などは遅刻ギリギリに登園するので、家庭環境に対して園や地域で、どのようにサポートするかが重要。</p>
会長 事務局	<p>目標指標9の塩分摂取について、国からも減塩対策は求められているが、市としてはどのように取り組まれているか。</p> <p>国の健康増進計画に当たる健康日本21では、最終評価に向けた専門員会での評価で、食塩摂取量は改善されているものの、減塩対策を最優先課題とされている。日本人の食塩摂取の半分は家庭での料理に使う調</p>

		<p>味料から摂っている傾向にあり、個人・家庭へのアプローチが必要と考えている。また、近年市内においてもファストフード店や外食産業が発展してきており、食環境が変化していると感じる。外食や中食をターゲットにした食環境整備も重要と考える。</p>
会 委	長 員	<p>大学生の減塩への意識や状況について感じることはあるか。</p> <p>2～3年前まではカップラーメン等をよく食べている学生の姿は目にしていたが、講義の中で塩分摂取の影響について学んでいるので、最近では、弁当を自宅で作って持参する男子学生も増えるなど時間はかかっているが、少しずつ意識が変わっているように感じる。</p>
会 委	長 員	<p>目標指標 14、15、16 の食品ロスに関する項目について、食事を残さないようにしていますか？という質問について、小学生のみ残さないと答えた人が減少しているが、小学校での食べ残しの現状はどうか。</p> <p>食べ残しについてはなかなか減らないというのが現状である。量については、無理なく食べられる量に減らすようにしているが、好き嫌いについては無くしていかなくてはいけないので、少しでも食べようという指導を行っている。フードロスについてはSDG sでも言われており、小学校高学年の総合的な時間等を活用して、フードロス無くすにはというテーマで子どもたちが自ら調べ、高学年が低学年に呼びかけていくということに取り組んでいる。</p>
会 委	長 員	<p>コロナ禍において、黙食を進める中で、食べ残しの量が増えているなどの影響はあるか。</p> <p>黙食の影響もあるかもしれないが、コロナ禍で、食べられないからと減らして、手を付ける前のものであってもおかわりして食べるのはどうかと、敏感になっており、給食が残る現状もある。</p>
会 委	長 員	<p>食品ロスの改善がみられたが、その要因をどのように考えるか。</p> <p>食品ロスのごみ問題につながるという意識が身についてきたのでは。食品ロスを減らすためには基本的な買いすぎない、作りすぎないことに加え、旬の食材を知り、食に興味を持つことも大切。また、食べ方や食事なマナーを家庭で子どもに丁寧に教えることも残さず食べることに繋がると思う。</p>
会 連 絡 会 委 員	長	<p>食教育の外部化が進んでいるように感じる。家庭でできることは家庭で取り組めるような情報発信も必要ではないか。食品ロスの改善、食べ残し登録店の増加がみられたが、市として工夫されたことはあるか。</p> <p>昨今、地球温暖化についてはマスコミ等で取り上げられることが増え、エコに対する市民の関心が高まり改善がみられなのではないかと感じる。市では生ごみを堆肥化するダンボールコンポストを利用される方については補助金を出す取組を行っている。「やまぐち食べきり協力店」の登録件数については令和4年度でもう1件増えており、今後も呼びかけていきたい。</p>
会 連 絡 会 委 員	長	<p>事前に厚狭高等学校の森委員から「子ども食堂について」のご質問をいただいている。担当課から現状をご説明いただきたい。</p> <p>7月現在、県内では136か所の子ども食堂があるが、市内には2か</p>

<p>委 員 連絡会委員</p>	<p>所のみ。どちらも民間での開設。そのうち1か所はコロナの影響等で休止されている。もう1か所は3月からフードパントリーを始められ、5月から子ども食堂も併設されたという状況。</p> <p>それはどこで開設されているのか。</p> <p>厚狭地区で「39びーだまありがとう食堂」を開催されている。定期的な開催ではなく、利用者の必要に応じて開催される形をとられている。</p>
<p>委 員 連絡会委員</p>	<p>高校生がボランティアとして子ども食堂に協力しているという活動が全国的にも広がっている。そのような活動をしてみたいと思っている生徒もおり、ぜひ活動につなげられればと思うが、不定期で開催されている理由はなぜか。</p> <p>立ち上げられたばかりで、これからどのように運営されるかを模索されている状況と思われる。生徒の方が活動に協力したいという想いを持たれていることを主催者へ伝えたい。</p>
<p>会 長 委 員</p>	<p>その他、委員から意見はないか。</p> <p>中間評価で、平成29年よりも悪化している項目が多く見受けられるが、これはコロナの影響なのか、食育の推進事業の方法がうまくいっていないのか。どう評価されているか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>推進事業は、課題を解決するための事業を検討、見直しを行いながら実施しているが、1つ1つの事業について課題が残ると感じている。共食等、コロナ禍で影響を受けた事業もあるが、必ずしも全てが影響を受けたものであるとは限らないが判断は難しい。この結果をしっかりと受け止め、関係機関の方々のご意見を伺いながら、事業ごとに見直しが必要なものは検討していきたいと考える。</p>
<p>委 員 事 務 局</p>	<p>推進計画の中で、料理教室の実施が多く挙げられているが、コロナ禍で開催が難しいという話もあった。料理教室を中心に食育をしていくことに限界があるのではないかと。今後は料理教室以外にも市民全体に食育を実施していく手法を新たに検討する必要があるのではないかと。</p> <p>食の体験を踏まえた学びの場は食育について非常に大切であると感じる。コロナ禍で、料理教室等の場が中止になった中で検討した事業を一部ご紹介させて頂くと、学校や地域において、調理実習ができないという状況があったため、夏休み期間を活用して、「手作り弁当コンテスト」、「朝食レシピコンテスト」を開催した。学校や地域で調理体験ができない中でも、家庭の中で親子で調理体験の場を作ってもらうことを目的としている。</p>
<p>会 長</p>	<p>今年度開催する食育講演会に関しても、まず食に興味を持ってもらうことに繋がり、市民や食育を推進する関係者が同じ方向を向いていけるようにと思っている。コロナ禍で課題が多い中で、少しずつ取組の幅を広げ、食育推進会義でご意見を頂き、連携を深めていきたい。</p> <p>国の第4次食育基本推進計画においても、デジタル化やSDGsといった視点が盛り込まれている。一方、デジタル化に対応できない市民に対してはどう周知していくのかが課題だが、デジタル化を上手く活用し</p>

委員	<p>て、食に興味を持つ市民を増やしていけるような事業展開を期待したい。</p> <p>その他、委員から意見はないか。</p>
事務局	<p>成人の意識調査のデータについて、一部年代別に比較されているようだが、他の設問も年代別で分けてみると新たな課題がみえてくるのではないか。今後の分析の参考にして欲しい。</p>
事務局委員	<p>参考にさせて頂き、今後分析に活かしていきたい。</p> <p>食に関する体験という点で、スマイルキッズにもキッズファームがあるが現在どのように活用されているか。</p>
連絡会委員	<p>キッズファーム実施当初は、夏にきゅうり・ミニトマト、秋にはさつまいもを植え、育てていた。スマイルキッズへ来館した親子に収穫してもらいたいという目的だったが、気温の高い屋外に出て、小さい子どもを連れた親子が収穫ということがなかなか難しいこと、コロナ禍の影響もあり、現在は、さつまいものみを栽培している。植え付けは職員と地域の方で行い、収穫は来館者が行っている。</p>
オブザーバー	<p>(3) 第二次山陽小野田市食育推進計画推進期間について (資料2事務局からの説明)</p> <p>資料2についてご質問、ご意見はあるか。 (特になし)</p> <p>事務局から説明があったが、推進期間を延長するという事、延長の期間は次回改めてご提案されるということによろしいか。 (承認される)</p> <p>(4) その他 (特になし)</p>
オブザーバー	<p>市民の方への食育へのそれぞれの立場からの想いを伺い、コロナ禍でもできることを考え、推進していくことが非常に大切であると改めて感じた。関係機関と連携を深め、同じ方向を向いて、県も協力しながら進んでいきたい。</p>
事務局	<p>3 その他</p> <p>ねたろう食育博士養講座、スマイルエイジング強化月間朝食レシピコンテストおよび手作り弁当コンテスト、食育講演会について周知および参加もお願いしたい。</p> <p>健康増進課長あいさつの後、閉会した。</p>